

令和7年度 木材研究所試験研究成果発表会・林産技術講習会

富山県農林総合技術センター木材研究所では、最新の試験研究成果の中から2課題を選び、発表会を開催します。また、林産技術講習会も併せて開催します。

木材研究所試験研究成果発表会

成果発表①	富山型耐震シェルターの開発と実用化への取り組み
発表者	木材研究所 木質構造課 課長 柴 和宏
発表要旨	能登半島地震を踏まえ、県産スギ平角材を柱に用いるとともにプレストレス技術を採用した耐震シェルターを開発した。これは、平角柱に沿った鋼棒の上端を油圧ジャッキで緊張をかけながらナット固定することで柱と土台を緊結するものである。施工が容易であり、また住宅が倒壊したときに想定される大きな水平荷重にも耐え、かつ広い開口部を可能にした。また耐震シェルターは住宅の1階に設置するため、2階が倒壊した場合に備えて、おもり落下試験により耐震シェルターの天井に対する耐衝撃性を確認した。なお本発表では、実用化に向けた取り組みについても併せて報告する。
成果発表②	法面保護材の耐久性及び防草効果の検証 ～試験設置した木製パネルの経過報告と改良型について～
発表者	木材研究所 木質製品課 主任研究員 桐山 哲
発表要旨	平成28年度から令和元年度にかけて、木材研究所で開発した林道法面視距確保のための木製法面パネルを県内各試験地に施工してから5年以上が経過しました。想定した耐久性を踏まえ、防草効果に伴う視距確保効果及び劣化(腐朽度)の現状を調査検証しました。加えて、時間経過に伴い発生した問題点(パネル面の堆積物、上部法面からの植物の覆いかぶさり、犬走りの植物繁茂など)から、改良型パネルの設計並びに試験施工を行いましたので併せて報告します。

林産技術講習会

講習会	ATA中大規模建築とCLTを活用した建物について	
講師	株式会社 ATA 須垣 智晴 営業課 担当課長 講師職歴 2017年 株式会社 ATA 入社 設計部で培った知見を活かして、技術営業(FAE)として顧客の技術的な課題解決を提案するため、全国を飛び回る。	
講演要旨	創業からこれまで、一般流通材の木材を使用し、規格化されたオリジナル金物で構築することで、柱のない大空間モジュールを実現できる「ATAハイブリッド構法」を用いて、全国に木造の中大規模建築物の普及を目的に実績を積んでこられました。 2025年大阪・関西万博では、「ATAハイブリッド構法」にCLTパネルを組み合わせた「ATA-CLT-S構法」がイタリア館、インドネシア館、フィリピン館などのパビリオンに採用され、環境に配慮しつつ、ユニークで開放的な空間デザインを実現されました。 今回は、その取り組み事例を紹介しながら、ATAハイブリッド構法について、詳しく解説していただきます。	



Visual by MCA Visual
Courtesy of Commissioner General for Italy at Expo 2025 Osaka